

平成 31 年度 事業報告

介護老人福祉施設 フラワーホーム

【総合的な目標の総括】

これまでの暮らしが施設に入所してから少しでも継続できるよう、生活歴や嗜好、家族関係等を聴き取る機会を設け、関係職種で共有し、ケアに反映させることができた。フラワーホームでの施設看取り率が 92.8%と大半の利用者が施設での看取りであった。看取り介護期において、比較的安定している時期から嘱託医、家族、施設の関係職種と連携を図り、その都度、話をする機会を設け、利用者・家族の意向を尊重し、利用者が入院することなく最期まで地域で生活できる支援ができたと考える。1 件は、最期の時を本人の自宅で迎える支援もできた。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

入所施設において、本人・家族のニーズに応じて外出や外泊の支援を行い、満足してもらうことができた。日常生活の中でも本人の思いをくみ取ったケアの提供ができた。

短期入所施設において、余暇時間を活用し、集団及び個別でのレクリエーション活動を実践することができた。また、利用者一人ひとりのアセスメント表を作成し、短期入所利用時にケアの一役を担うことができた。

栄養部門において、委託業者と協同し、食事の配膳工程を見直した。温冷配膳車をこれまで以上に活用し、適時・適温で食事を提供できるようになった。食事本来の味や食感を維持でき、残食率の減少にもつながった。また、季節の食材を用いて、利用者と一緒におやつや行事食の調理・提供ができた。

ユニットと共同してフラワー食堂と題し、利用者の嗜好を聞き取り、一緒に調理をし、提供する取り組みを実施した。

職員教育については、県老施協主催の研修会を始め、外部研修に定期的に参加し知識と技術の向上を図った。また、ケア会議や職員研修会の中でノーリフト(持ち上げない介護)、感染症対策、看取り介護などの勉強会を行い、質の向上を目指した。身体的拘束等の適正化のための職員研修の定期的な実施や新入職員に対しての研修も実施することができた。

人材確保に関しては既存特養の介護職の数を常勤換算で 19.9、ショートステイで 10.9 確保できた。介護職員の令和 1 年度の介護職離職者は常勤換算で 6.0 だった。

令和 1 年 10 月より新設され、当法人でも新たに算定した介護職員等特定処遇改善加算の算定により、介護職の処遇だけでなく、その他の職種の殊遇も改善され、人材確保の一役を担ったと考える。

【収益的活動】

多床室の年間ベッド稼働率は 99.1%で当初目標を 0.1%上回った。ショートステイは年間ベッド稼働率 85.7%で当初目標を 0.7%上回った。

現状算定できている加算については、職員数の確保と専門職の配置により継続して算定することができ、収入に結び付けられた。また、夜勤時間帯に喀痰吸引業務ができる職員を配置し、より手厚い支援体制を整えることで収入に結び付けることができた。

【支出的活動】

新たな移乗用介護用品を購入しノーリフト(持ち上げない介護)の更なる浸透につながった。

【地域貢献活動】

県老施協の介護てつだい隊事業に参加し、2 名の高齢者雇用につなげ、開かれた地域の拠点づくりの一役を担った。

平成 31 年度 事業報告

介護老人福祉施設 フラワーホームユニット

【総合的な目標の総括】

利用者が家族・地域とのつながりが途絶えることのないよう、本人・家族のニーズに応じて外出や外泊の支援を行い、満足してもらうことができた。

嘱託医である徳永医院の積極的な関わりのおかげで、これまで通り、深夜・早朝も必要があれば往診をして頂いたことにより、利用者・家族の思いに沿った支援が提供できた。フラワーホームユニットでの施設看取り率が 93.7%と大半の利用者が施設での看取りであった。看取り介護期において、比較的安定している時期から嘱託医、家族、施設の関係職種と連携を図り、その都度、話をする機会を設け、利用者・家族の意向を尊重し、利用者が入院することなく最期まで地域で生活できる支援ができたと考える。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

ノーリフト(持ち上げない介護)の意識・考えがユニット職員全体に浸透しており、利用者の移乗時に福祉用具を活用したノーリフトを継続的に実践することができた。

地産地消を意識し、隠居長屋ろんち前で販売されている地域住民が育てた野菜を調理し、利用者に提供することができた。また、既存特養と共同してフラワー食堂と題し、利用者の嗜好を聞き取り、一緒に調理をし、提供する取り組みを実施した。食欲が低下した利用者、家族の協力も頂きながら好みの食べ物を持参してもらい、調理・提供する等、柔軟な対応ができた。

職員教育については、県老協主催の研修会を始め、外部研修に定期的に参加し知識と技術の向上を図った。また、ケア会議や職員研修会の中でノーリフト(持ち上げない介護)、感染症対策、看取り介護などの勉強会を行い、質の向上を目指した。身体的拘束等の適正化のための職員研修の定期的な実施や新入職員に対しての研修も実施することができた。

人材確保についてはユニットの介護職の数を常勤換算で 18.3 確保できた。また、令和 1 年度は介護職離職者 1.0 だった。

【収益的活動】

年間ベッド稼働率は 98.6%で当初目標に 0.4%届かなかった。現状算定できている加算については、職員数の確保と専門職の配置により継続して算定することができ、収入に結び付けられた。

【支出的活動】

新たな移乗用介護用品を購入し、ノーリフト(持ち上げない介護)の浸透につながった。

【地域貢献活動】

県老協の介護つた隊事業に参加し、1 名の高齢者雇用につなげ、開かれた地域の拠点づくりの一役を担った。

平成31年度 月別介護度別利用実績一覧表

特別養護老人ホームフラワーホーム

延べ利用者数

単位 : 人

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	0	0	0	0	119	501	869	1,489
5 月	0	0	0	0	124	546	868	1,538
6 月	0	0	0	0	120	510	870	1,500
7 月	0	0	0	0	124	465	961	1,550
8 月	0	0	0	0	122	496	930	1,548
9 月	0	0	0	0	124	421	920	1,465
10月	0	0	0	0	155	449	938	1,542
11月	0	0	0	0	160	450	880	1,490
12月	0	0	0	0	155	511	872	1,538
1 月	0	0	0	0	110	565	848	1,523
2 月	0	0	0	0	87	555	789	1,431
3 月	0	0	0	0	93	620	837	1,550
合計	0	0	0	0	1,493	6,089	10,582	18,164

実利用者数

単位 : 人

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	0	0	0	0	4	17	29	50
5 月	0	0	0	0	4	18	28	50
6 月	0	0	0	0	4	17	29	50
7 月	0	0	0	0	4	15	31	50
8 月	0	0	0	0	4	16	30	50
9 月	0	0	0	0	5	16	31	52
10月	0	0	0	0	5	15	32	52
11月	0	0	0	0	6	15	30	51
12月	0	0	0	0	5	17	30	52
1 月	0	0	0	0	4	19	29	52
2 月	0	0	0	0	3	21	29	53
3 月	0	0	0	0	3	20	27	50
合計	0	0	0	0	51	206	355	612

令和1年度 月別介護度別利用実績一覧表

特別養護老人ホームフラワーホームユニット

延べ利用者数

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	0	0	0	0	90	436	360	886
5月	0	0	0	0	124	446	335	905
6月	0	0	0	0	147	430	313	890
7月	0	0	0	0	155	423	343	921
8月	0	0	0	0	155	351	402	908
9月	0	0	0	0	150	341	384	875
10月	0	0	0	0	124	433	371	928
11月	0	0	0	0	110	420	362	892
12月	0	0	0	0	100	434	391	925
1月	0	0	0	0	92	457	368	917
2月	0	0	0	0	87	404	374	865
3月	0	0	0	0	93	439	389	921
合計	0	0	0	0	1,427	5,014	4,392	10,833

実利用者数

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	0	0	0	0	3	17	12	32
5月	0	0	0	0	5	15	13	33
6月	0	0	0	0	5	15	11	31
7月	0	0	0	0	5	14	12	31
8月	0	0	0	0	5	14	13	32
9月	0	0	0	0	5	12	13	30
10月	0	0	0	0	4	14	12	30
11月	0	0	0	0	4	14	13	31
12月	0	0	0	0	4	14	13	31
1月	0	0	0	0	3	15	12	30
2月	0	0	0	0	3	14	13	30
3月	0	0	0	0	3	15	13	31
合計	0	0	0	0	49	173	150	372

平成31年度 行事及び研修実績表

特別養護老人ホームフラワーホーム
特別養護老人ホームフラワーホームユニット

月	日	行事	内部研修	外部研修	来園者
4	3	ゴッタンズ霧島来園	高齢者福祉研究会 ユニットリーダー研修報告	介護技術専門研修	ボランティア6名程
	5	新年度目標発表会・親和会総会			
	6	開園記念日			
	8～9	非常時総合避難訓練			霧島市消防局溝辺分遣所員
	17				
	19	法要法話			藤谷先生
	24	虹のキャラバン(老人福祉施設巡回訪問)来園			ボランティア7名程
5	24				
	25				
	27				
	30				
	7～9	地震想定避難訓練		介護技術専門研修 始良・伊佐地区老協総会	
	21				
6	22				
	23～24	既存特養・ユニット 家族交流会	AEDの使用方法・特養の利用料について	県老協 理事長・施設長研修会	
	25				加来先生
	27	法要法話			
	30				
	3～5				
	10		身体的拘束等適正化検討委員会	介護技術専門研修	
	13～14	龍桜高校看護学科実習		番頭塾	実習生8名
	17～28				
	18～19	夜間火災想定避難訓練		県老協 スキルアップ研修	
7	21	法要法話			藤谷先生
	24				
	25	風船バレー大会	健やかな身体づくりと仲間づくりについて		
	26				
	26～27			番頭塾	
	2	綾南幼稚園七夕交流			綾南幼稚園児
	11	陵南小2年生 社会見学			陵南小2年生69名
	11～25	龍桜高校医療福祉科実習			実習生3名
8	13	竹子みどりの少年団交流会			竹子小学校児童26名・教員・保護者
	17	災害時対応訓練		介護保険施設等集団指導	
	19		高齢者福祉研究会		
	19		高齢者福祉研究会		
	20				
	23～24			番頭塾	
	23～26		スキルアップ研修研修	認知症介護実践リーダー研修	
	25	法要法話			加来先生
	30				
	29～8/2			認知症介護実践リーダー研修	
9	1	職員健康診断		介護技術専門研修(学科試験)	
	7				
	7～8	夜間集合避難訓練週間	事例発表会	ファーストステップ研修	
	19				実習生5名
	23	既存特養・ユニット納涼会			
	26～29	加治木看護専門学校実習		番頭塾	藤谷先生
	27～28	法要法話		エンドオブライフ・ケア研修	
9	28				
	29～30				
	2～5	加治木看護専門学校実習			実習生5名
	3～4				
	10		身体的拘束等適正化検討委員会	ファーストステップ研修	
	10～11	龍桜高校医療福祉科実習		認知症ケア研修会	実習生3名
	12～10/11	既存特養・ユニット敬老祝賀会			
	14			第25回全国の集いin東京2019	
	15～16			地区老協看護職員研修	
	20	夜間火災想定避難訓練	エンドオブライフ・ケア研修	権利擁護推進員養成研修	
9	24			認知症介護実践リーダー研修	
	25				加来先生
	25～26	法要法話			
	26～27				
	30				

平成31年度 行事及び研修実績表

特別養護老人ホームフラワーホーム
特別養護老人ホームフラワーホームユニット

月	日	行事	内部研修	外部研修	来園者
10	1～3 7 16 18 23 25 28 29 29～30 30	火災想定避難訓練 法要法話	高齢者福祉研究会 認知症ケア研修会 法人内ケアマネジメント研修会 		

平成 31 年度 統計資料及び添付資料

< 1 > 利用者の出身市町村別、年齢別の状況（令和 2 年 3 月 31 日現在の住所地）

n = 80

年齢 出身地	性 別	65 歳 ～ 69 歳	70 歳 ～ 74 歳	75 歳 ～ 79 歳	80 歳 ～ 84 歳	85 歳 ～ 89 歳	90 歳 ～ 94 歳	95 歳 ～ 99 歳	100 歳 以上	計	合計			
溝辺町	男	2	0	0	4	2	4	0	0	12	52			
	女	1	2	2	4	11	12	7	1	40				
国分	男	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3			
	女	0	0	0	0	0	2	0	0	2				
隼人町	男	0	0	0	0	0	2	1	0	3	12			
	女	0	0	1	3	0	4	1	0	9				
横川町	男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3			
	女	0	0	0	1	0	0	1	0	2				
牧園町	女	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1			
福山町	女	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1			
始良市	女	0	0	0	0	0	3	1	1	5	5			
湧水町	女	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1			
鹿児島市	女	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2			
計		3	2	3	13	15	29	13	2	80				
平均年齢		87.8歳				最高年齢			106 歳 5 月		最少年齢		67 歳 10 月	
男 性		86.3歳				男 性			97 歳 11 月		男 性		67 歳 10 月	
女 性		89.3歳				女 性			106 歳 5 月		女 性		68 歳 9 月	

＜２＞施設利用状況

事業所名		フラワーホーム			フラワーホームユニット			ショートステイ		
月	日数 (日)	日数× 50名	入居 延べ数	稼働率	日数× 30名	入居 延べ数	稼働率	日数× 20名	利用 延べ数	稼働率
4月	30	1,500	1,489	99.1%	900	886	98.4%	600	521	86.8%
5月	31	1,550	1,538	99.2%	930	905	97.3%	620	541	87.0%
6月	30	1,500	1,500	100%	900	890	98.8%	600	496	82.7%
7月	31	1,550	1,550	100%	930	921	99.0%	620	556	91.3%
8月	31	1,550	1,548	99.8%	930	908	97.6%	620	526	84.8%
9月	30	1,500	1,465	97.6%	900	875	97.2%	600	505	84.2%
10月	31	1,550	1,541	99.4%	930	929	99.8%	620	467	75.3%
11月	30	1,500	1,490	99.3%	900	892	99.1%	600	501	83.0%
12月	31	1,550	1,538	99.2%	930	925	99.1%	620	561	90.5%
1月	31	1,550	1,523	98.2%	930	918	98.7%	620	533	86.0%
2月	29	1,450	1,419	97.8%	870	865	99.4%	580	514	88.6%
3月	31	1,550	1,550	100%	930	921	99.0%	620	546	88.1%
合計	366	18,300	18,151	99.1%	10,980	10,835	98.6%	7,320	6,267	85.7%

* 小数第 2 位以下切り捨て

＜３＞介護度の状況

(令和２年３月３１日現在) n=80

性別	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計	平均介護度
男	０	０	２	５	１０	１７	４.４７
女	０	０	４	３０	２９	６３	４.４０
計	０	０	６	３５	３９	８０	４.４１

＜４＞要介護認定更新の推移

	介護度維持	介護度進行	介護度改善	改善率
フラワーホーム	１６名	６名	３名	１２.０％
フラワーホームユニット	８名	８名	１名	５.８％
合計	２４名	１４名	４名	９.５％

* 令和１年度、介護保険更新認定 80 名中 42 名の結果

< 5 > 退所状況

	年齢	性別	退所日	退所理由
フラワーホーム	87 歳	男性	令和 1 年 5 月 1 日	死亡
	91 歳	女性	令和 1 年 9 月 4 日	死亡
	99 歳	女性	令和 1 年 9 月 20 日	死亡
	99 歳	女性	令和 1 年 9 月 20 日	死亡
	100 歳	女性	令和 1 年 10 月 14 日	死亡
	99 歳	女性	令和 1 年 10 月 20 日	死亡
	89 歳	女性	令和 1 年 11 月 16 日	死亡
	84 歳	女性	令和 1 年 12 月 4 日	死亡
	93 歳	女性	令和 1 年 12 月 11 日	死亡
	95 歳	女性	令和 2 年 1 月 6 日	死亡
	88 歳	女性	令和 2 年 1 月 19 日	死亡
	92 歳	女性	令和 2 年 2 月 2 日	死亡
	79 歳	女性	令和 2 年 2 月 12 日	長期入院
	94 歳	女性	令和 2 年 2 月 15 日	死亡
ユニット	77 歳	女性	平成 31 年 4 月 6 日	死亡
	100 歳	男性	平成 31 年 4 月 16 日	死亡
	103 歳	女性	令和 1 年 5 月 9 日	死亡
	85 歳	女性	令和 1 年 5 月 11 日	死亡
	96 歳	女性	令和 1 年 5 月 16 日	死亡
	87 歳	女性	令和 1 年 5 月 27 日	死亡
	96 歳	女性	令和 1 年 5 月 27 日	死亡
	92 歳	女性	令和 1 年 6 月 15 日	死亡
	89 歳	女性	令和 1 年 7 月 20 日	死亡
	86 歳	男性	令和 1 年 8 月 2 日	死亡
	90 歳	女性	令和 1 年 8 月 9 日	死亡
	70 歳	女性	令和 1 年 9 月 6 日	死亡(入院先)
	68 歳	女性	令和 1 年 9 月 30 日	多床室へ転居
	96 歳	女性	令和 1 年 11 月 20 日	多床室へ転居
	95 歳	女性	令和 1 年 12 月 19 日	死亡
	88 歳	女性	令和 2 年 1 月 26 日	死亡
	93 歳	男性	令和 2 年 1 月 27 日	死亡
	88 歳	女性	令和 2 年 3 月 17 日	死亡
【退所状況 集計】				
	退所者数		看取り介護数	施設看取り率
フラワーホーム	14 名		13 名	92.8%
フラワーホームユニット	18 名		15 名	93.7% (転居者含まず)
合計	32 名		28 名	93.3% (転居者含まず)

< 6 > 事故の状況

(種別)

転倒	転落	服薬ミス	皮膚剥離	打撲	異食	その他
49	25	6	20	15	5	12

(発生場所)

食堂・ホール	居室	浴室	トイレ	廊下	屋外	その他
47	64	9	7	1	2	2

(発生時間帯)

深夜 0 : 00 ~ 4 : 00	早朝 4 : 00 ~ 8 : 00	午前 8 : 00 ~ 12 : 00	午後 12 : 00 ~ 16 : 00	夕方 16 : 00 ~ 20 : 00	夜間 20 : 00 ~ 0 : 00
9	28	34	29	23	9

(重大事故)

対象者	事故種別	事故概要
94 歳 女性 (ユニット)	転倒	訪室した際、ベッドとタンスの辺りでズボンを下ろした状態で転倒しているのを介護職が発見。看護職による観察、「左肩と頭が痛い」との訴えあり。嘱託医の指示で整形外科受診。左鎖骨骨折の診断。所見や年齢的なことを考慮し、手術適応なし。三角布固定の指示。腰椎の骨折なし。頭部も異常なし。保険者に連絡。
91 歳 女性 (多床室)	転落	深夜帯、当該入所者ベッド臥床中(就寝中)に弄便行為があった。介護職がシーツ交換・更衣等の支援をするために、車椅子移乗した。本人を背にした状態(死角)でシーツ交換中、体動があり車椅子から床に転落。同日就業のもう一人の介護職と意識状態・全身状態確認を行った。意識鮮明。骨の著しい変形等は確認されなかった。徐々に左頬に内出血斑が見られてきた。明朝、嘱託医の指示で整形外科受診。骨折の所見はなかった。保険者に連絡。

<7>苦情・相談・意見について

申し出人	意見概要	対応
入所者家族 (意見箱に 投函)	入居者家族より現場職員の皆で食べてもらおうと、お菓子のお土産を頂いた。 「いつもなら、こちらが恐縮するくらい会う度にお礼を言われるのに、今回は何もありません。」「お礼を要求している訳ではありませんが、ちゃんと行き渡ったのか少し不安になった。」 「渡したのは、男性職員だった。」という内容のご意見の投函があった。	匿名のため、ご家族に直接お詫びをすることはできず。 当該事業所の男性職員に尋ねたが、受け取った記憶はないとのことだった。 リーダーに本事案の件を伝達した。頂いたお菓子を職員に配布する際は、どちらのご家族から分かるように配布する。また、頂いた際、別日で面会があった際等は必ずお礼を伝える。 ケア会議や職員研修会を通じて、相談員より本事案の概要と対応等を職員に周知、注意喚起をした。
入所者家族 (相談)	キーパーソンである長男(県外在住)から“母が急変したり、急に亡くなったりすることがあれば、家族はどのような対応をすれば良いか？”という趣旨の問い合わせが介護職員にあった。	相談員より長男に電話で連絡をして相談内容や意向等の確認をした。 母も今は元気に過ごしているが、高齢になり、急変したり、急に亡くなったりということがないとは限らない。そのような事態の陥った際に、慌ただしい思いをしたくないし、ある程度の想定をしておきたい。少し不安に思い、相談した次第とのことだった。 家族の思いや考えを傾聴し、連絡体制や死亡時の対応、葬儀等のことについて現段階で返答できる内容等の助言をした。
入居者家族 (相談)	看取り介護期の入居者の近所の方々が突然面会に来られ、30分くらい居座った。当該入居者自身、体調が思わしくないにも関わらず、「こげんならんな、け死んがならんでやな」等言われ、不快な思いだった。 「まだ聴こえるので、そんなことは言ってほしくなかった。」「元気な頃なら良いけど、今の状態で合ってほしくなかった。」と家族談。 親族以外の面会は控えてもらうよう取り計らってほしいと家族からの相談。「もう来ないと思うけど、大げさにしてごめんね。」と家族談。	基本的に面会しても構わない方々を家族に伺い、対象となる方以外の面会は控えてもらうことで定まった。 仮に対象となる方以外の方が気づかないうちに自室におられた場合は、「申し訳ございません。今から排泄ケアに入るので、ご退室願えますか？」等丁寧に伝え、退室を促す。 当該事業所職員にも対応を伝達した。
入居者家族 (苦情)	20:00 頃、入居者家族が面会に来た。すでに消灯しており、同室者が就寝中だった為、当該日夜勤介護職は常夜灯での面会をお願いした。そのやり取り、対応で家族が憤慨した。	翌日、担当者会議のため、家族来園。話をする場を設け、状況や家族の考えを聞き取った。 消灯時間や夜間の面会時の照明のことにに関して施設として意識の統一がなされていなかったことをお詫びした。 「私も言わないで良いことを言ってしまった。いかんかった。」「対応した介護職にも気にしないよう伝えてほしい。」と家族談。 面会時の照明のことに關しては、照明を点けること(点けておく)で構わないことを伝えた。

< 8 > 職員数

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

施設長	事務員	生活相談員	介護職員	看護職員	介護支援専門員	機能訓練指導員	障害者支援員	栄養士 管理栄養士	歯科衛生士	調理員	企画室	総務
1	5	1	52 (13)	5 (1)	4	1	1	3	2 (2)	4 (4)	1	8 (8)

* () 書きは、非常勤職員数を再掲

* 介護職員 52 名中「介護福祉士」有資格者 46 名

* 看護職員 5 名中「看護師」3 名「准看護師」2 名

* 栄養士 3 名中「管理栄養士」2 名「栄養士」1 名

* 総務は洗濯、清掃、送迎業務に従事、総務員 8 名中 2 名は障害者雇用

< 9 > 入職者数

職種 \ 年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
介護職員	0	0	2	2	1	3	8
(うち介護福祉士)	(0)	(0)	(2)	(1)	(1)	(0)	(4)
看護職員	0	0	1	0	0	0	1
調理員	0	0	0	0	1	0	1
計	0	0	3	2	2	3	10

< 1 0 > 退職者数

性別／年代	在職期間	職種
女性 50 代後半	18 年 10 ヶ月	介護職 (非常勤)
女性 30 代後半	11 年 8 ヶ月	介護職 (正社員)
女性 30 代後半	8 年 0 ヶ月	介護職 (正社員)
男性 40 代前半	1 年 10 ヶ月	介護職 (正社員)
男性 50 代後半	2 年 4 ヶ月	介護職 (非常勤)
女性 30 代後半	9 年 6 ヶ月	介護職 (正社員)
男性 30 代後半	8 年 6 ヶ月	介護職 (正社員)
女性 50 代後半	2 年 3 ヶ月	総務 (非常勤)

* 介護職員の令和 1 年度離職率 13.7% (平成 31 年 4 月 1 日在職者 51 人を分母)

平成 31 年度 事業報告

フラワーホームデイサービスセンター

【総合的な目標の総括】

・今年度、事業を停止した白梅からの総合事業の利用者を受け入れ、定員も45人に増やし自発的に活動できる人も増えた。今までの活動を改めるために「株式会社ユニティ」のコンサルタントを受けた。自立を促す手法を学び、「できる」を伸ばす事に努めた。今まで職員の作業だった一部の業務を手伝ってもらうなど自発的動ける生活活動を取り入れた。少しずつではあるが利用者・職員の意識改革に繋げていくことができた。しかしながらまだ一部の利用者には難しい点も多く、全員が自発的・活動的に動けるには難しい。まだまだ職員の促しも必要となってくる。入浴を必要とする利用者も多く、一日中入浴支援を行う事で本当の自立支援になっているのか？全体のサービスの質の低下につながっていないか？との声も出ている。今後も利用者のニーズ・家族のニーズを見極めながらサービスに繋げていきたい。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

・機能訓練、生活動作に繋がる活動の参加が出来ていた。

職員が様々な活動プログラムを思考し提供し利用者がレクリエーションを選択しながら参加することができた。利用者が自発的に体操などにも参加するようになったが、空白の時間に自分から積極的に何かに取り組むといった動作はまだ少なく、声掛け促しが必要である。

・認知症の方も増え少なからず利用者間のトラブルもあった。

利用者同士、互いが認め合い理解し合え、そこには職員の介入が不可欠で、互いに勉強しながら症状に関わらず共に過ごせる空間作りに努めます。

・家族支援

家族会を開催することができた。しかしながら参加人数の方が少なく今後開催するには参加人数を増やすための案を検討しなければならいと感じた。

・人財育成

定期の事業所内研修は開催できたが参加人数が少ない日もあるのが反省である。加算取得に繋げるような外部の研修に参加することが出来なかった。引き続き研修への参加を促していく。

【収益的活動】

定員が 45 名になり利用日が最大で 39 名の日もあり単純に収益を伸ばすことが出来たが、それと同時に今までで一番の多さに慌ただしさも感じた。45 名では今のフロアに受け入れるキャパシティーが無いと感じている。職員の配置人員も確保せねばならず、本当に 45 名定員が必要かどうか今後精査する必要性があるとみる。各加算の取得は大きく伸ばす事が出来なかったが今年度も引き続き利用者を見極めて加算取得に繋げたい。またケアマネージャーへの浸透も深めていかなければならない。

【支出的活動】

年度末になったがリハビリ機器を導入することができた。今までの包括支援センターの敷地分を機能訓練室へと増設し機器 6 台を導入した。機器と普段の体操などを組み合わせながら今年度は更なる機能訓練の充実を図りたい。

トイレ、浴場の増築整備も挙げていたが現段階では増設を必要とするまでは至っておらず保留としている。しかしながら利用時に改修をするとなると入浴の場合、通常利用では不便な点も多く、利用人数の 8 割強が入浴を必要とする現在、改修が必要ならば十分な計画を整えてからの施行を目指す。同時に実際に入浴が必要なのかを見極める必要性もあると考える。

【地域貢献活動】

地域の小学校、2 校へ利用者作成の「雑巾」を寄贈。

陵南小学校では家庭科の授業で、縫い付けの講師として参加。小学生と共に有意義な時間を過ごすことが出来た。

幼稚園へ利用者作成の木材の廃材を利用し制作した「積み木」を寄贈。

当初は危ないのではないかと危惧していた刃物を使った制作レクも経験値のある利用者から指導して頂き、無事に行う事が出来ている。こちらもユニティから学んだ手法である。幼稚園へ寄贈し園児との交流が出来た。

現在は外出自粛の為、外出が難しくなっているがこの交流は恒久的に継続しなければならない。

< 1 > 登録利用者状況

	介護	総合事業（支援 含）	計
4 月	81	32	113
5 月	75	32	107
6 月	76	29	105
7 月	74	30	104
8 月	74	26	100
9 月	78	25	103
10 月	81	25	106
11 月	78	28	106
12 月	75	28	103
1 月	76	25	101
2 月	76	26	102
3 月	72	27	99

< 2 > 曜日別・月別平均利用者数（定員 45 名）

	月	火	水	木	金	土
4 月	33	32	29	35	30	32
5 月	35	31	28	33	32	31
6 月	34	31	26	35	33	29
7 月	34	30	27	35	34	26
8 月	33	28	25	30	32	25
9 月	32	32	32	35	33	25
10 月	35	31	32	35	33	30
11 月	32	30	34	33	32	30
12 月	30	28	30	29	35	33
1 月	32	28	21	20	31	29
2 月	31	31	28	30	35	33
3 月	29	32	29	32	37	30
平均	33	30	28	32	33	29

少数点第一を四捨五入

＜３＞介護度の状況

(令和２年３月３１日現在)

性別	総合	介 １	介 ２	介 ３	介 ４	介 ５	計
男	５	８	７	５	２	０	２７
女	２２	１８	１７	１４	１	０	７２
計	２７	２６	２４	１９	３	０	９９

＜４＞利用者年代別状況

(令和２年３月３１日現在)

６０代	７０代	８０代	９０代	１００代
１	１９	６３	２７	１

＜５＞介護度別平均年齢状況

(令和２年３月３１日現在)

性別	総合	介 １	介 ２	介 ３	介 ４	介 ５	平均
全	８４	８７	８７	８６	８２	０	８５
男	８４	８７	８４	８２	８４	０	８４
女	８５	８８	８８	８８	７９	０	８６
最高齢 １０２歳 若年齢 ６９歳							

＜６＞要介護認定更新の推移

介護度維持	介護度進行	介護度改善	改善率
４９名	２１名	８名	１０％

*平成３１年度、介護保険更新認定７８名の結果

＜７＞ヒヤリハットの状況

(種別)

注意不足	送迎ミス	送迎車	異物混入	利用者の行為
６	３	０	０	１

(発生場所)

ホール	和室	浴室	脱衣場	トイレ	洗面所	車内	玄関	屋外	その他
０	０	０	１	０	０	１	０	１	７

(発生時間帯)

朝迎え時 8 : 30～9 : 30	午前中 9 : 30～12 : 00	午後 12 : 00～15 : 45	夕送り時 15 : 45～16 : 45
3	4	2	1

< 8 > 事故の状況

(種別)

転倒・転落	外傷	皮膚剥離	打撲	その他
14	1	1	0	3
送迎ミス	紛失			
0	0			

(発生場所)

食堂ホール	浴室	脱衣場	トイレ	車内
9	0	1	2	0
玄関	自宅	静養ベッド	屋外	和室
2	0	1	1	3

(発生時間帯)

朝迎え時 8 : 30～9 : 30	午前中 9 : 30～12 : 00	午後 12 : 00～15 : 45	夕送り時 15 : 45～16 : 45
4	8	7	0

< 9 > 車両事故

物損 (謝罪)	物損 (補償)	自車のみ	対向車
3	0	2	0

< 10 > 苦情・相談・意見について

申し出人	意見概要	対応
利用者家族（妹）	財布に入れていたはずの現金がないと、利用者・妹より担当ケアマネージャーに連絡がきた。	妹が財布の中に現金を入れていた。利用者の一日の様子など精査。職員1名は財布があった事を確認しているが中身までの確認は出来ていない。デイ内、自宅を探すが出てこない。所在不明に為、こちらでの様子や財布の確認などが出来ていないことなどを伝え謝罪。今度からは貴重品の持ち込みの有無の確認をする事を約束し了承して頂けた。
利用者本人	持ってきたはずの貴重品がない	ケアマネ、職員で自宅、デイ内探すが出てこない。謝罪し貴重品の持ち込みの有無の確認をする事を約束し了承を得る。
利用者本人	持ってきたはずの物がない	全員の持ち物を確認させて頂き他者のバックの中から見つかる。持っていた本人はもらったと言うが、当事者はそんなことは言っていない。

< 11 > 職員数

（令和2年3月31日現在）

管理者	生活相談員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員
1	1	6 (2)	2 (1)	1

*（ ）書きは、非常勤職員数を再掲

*介護職員6名中「介護福祉士」有資格者6名

*看護職員2名中「看護師」2名

*機能訓練指導員は理学療法士1名

平成31度 月別介護度別利用実績一覧表

フラワーホームデイサービスセンター

延べ利用者数

単位 : 人

	総合事業	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	70	17	69	197	284	135	24	22	818
5 月	62	23	70	221	291	139	22	22	850
6 月	67	14	61	212	245	140	19	23	781
7 月	73	14	54	246	248	153	22	23	833
8 月	64	8	57	245	225	138	23	22	782
9 月	62	13	44	278	225	123	20	21	786
10月	72	15	56	313	262	125	18	17	878
11月	78	17	59	288	230	126	19	9	826
12月	77	17	62	270	210	129	16	9	790
1 月	59	11	43	254	168	118	17	8	678
2 月	76	17	42	264	193	162	19	4	777
3 月	75	18	48	283	199	155	34	0	812
合計	835	184	665	3071	2780	1643	253	180	9611

実利用者数

単位 : 人

	総合事業	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	13	5	14	24	35	16	5	1	113
5 月	13	6	13	26	29	15	4	1	107
6 月	13	4	12	27	26	17	4	2	105
7 月	14	5	11	27	27	15	4	1	104
8 月	13	3	10	30	24	15	4	1	100
9 月	13	4	8	34	25	14	4	1	103
10月	12	4	9	33	28	15	4	1	106
11月	13	5	10	31	25	17	3	2	106
12月	13	5	10	28	25	17	3	2	103
1 月	12	4	9	31	23	18	2	2	101
2 月	12	6	8	28	24	21	2	1	102
3 月	12	5	10	26	24	19	3	0	99
合計	153	56	124	345	315	199	42	15	1249

平成 31 年度 事業報告

フラワーホームホームヘルプサービス

【総合的な目標】

地域の中で自分らしく、心も豊かに安心して暮らせるようにしました。独居の方が多いため、話を傾聴しながら不安や心配事等がないか聴き、出来る限りで助言をすることで不安の軽減につながるよう心掛け、安心して生活できるよう努めました。また関係事業所などと連携をとりました

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

ヘルパー1人ひとりの質の向上を図るため研修に参加し、またそれが現場で生かされていくよう勉強していきまた、安心して仕事ができるような体制をとっていきました。

毎月1回ヘルパーミーティング時に計画に沿って研修（勉強会）を実施しました。管理栄養士による調理実習などすぐに現場で活用できるものでありヘルパーにも好評でした。今年度は外部の研修をヘルパー全員に実施することができ学んだ事が即実践に生かされる研修でした。今後も継続して実施していこうと思います

【収益的活動】

利用者の健康状態などを訪問時に把握し、異常時は早期に発見でき、出来る限り自宅で生活してもらうようにする。また、専門職の指導や助言をもらいながら行う。

体調を崩され、長期の入院になる方々が例年より多くみられました。食中毒や熱中症（脱水）、感染症など勉強会ではもちろん、予防を徹底していけるように状態観察、声かけ等行っていこうと思います。

【支出的活動】

備品購入の見直しを行う。

在庫の確認を行い、用紙の裏などリサイクルできるものは再利用しました。

【地域貢献活動】

ヘルパーの役割として各地域での行事参加のための利用者と地域との連絡係となり調整していきました。

連絡を取り合う中で地域の方々とヘルパーの交流を図る。

地域への関係者への連絡および遠方にいらっしゃるご家族への電話連絡等行いました。利用者様への声かけやカレンダーやメモ書きなどして分かりやすいようにしました。これからもずっと地域の住民として地域行事に参加できるよう努めていきたいと思ひます。

平成31年度 月別介護度別利用実績一覧表

フラワーホームホームヘルプサービス

延べ利用者数 平成31年 4月～令和2年 3月

単位 : 人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	8	47	50	197	306	139	3	8	758
5月	16	40	46	215	280	137	12	9	755
6月	16	30	40	214	257	181	6	9	753
7月	28	19	36	240	254	187	2	8	774
8月	36	12	31	220	209	194	10	8	720
9月	38	11	35	221	252	182	6	13	758
10月	30	3	34	250	291	204	9	6	827
11月	27	3	34	260	287	168	30	17	826
12月	26	3	34	246	291	156	31	50	837
1月	27	13	33	243	275	167	30	33	821
2月	29	11	33	208	265	174	28	34	782
3月	31	4	28	278	297	209	31	14	892
合計	312	196	434	2792	3264	2098	198	209	9503

実利用者数

単位 : 人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	1	8	8	14	22	10	1	1	65
5月	2	7	7	14	20	9	1	1	61
6月	2	6	7	15	17	9	1	1	58
7月	5	3	5	16	16	9	1	1	56
8月	6	2	5	15	15	10	1	1	55
9月	8	2	5	17	18	12	1	1	64
10月	6	1	5	17	21	11	1	1	63
11月	5	1	5	19	20	11	1	2	64
12月	5	1	5	20	20	9	1	3	64
1月	5	3	5	19	19	11	1	3	66
2月	5	2	5	18	20	12	1	2	65
3月	5	1	5	22	19	12	1	1	66
合計	55	37	67	206	227	125	12	18	747

平成 31 年度 行事および研修実績表

フラワーホームホームヘルプサービス

月	日	行事・研修	内部研修	外部研修	参加者
4	16 30	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	接遇について		
5	7 22 28 31	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング 県ホームヘルパー協議会 総会及び研修会 介護職スキルアップ研修	認知症ケアについて	おむつの正しい選び方と装 着法 認知症ケア	樋口、飯田 中玉利
6	11 18 19 25	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング 介護職スキルアップ研修 介護職スキルアップ研修	口腔ケアについて（舌苔除 去） 脱水・熱中症予防	排泄ケア 口腔ケア	橋口・安藤 野間・前園
7	2 23 30	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	調理実習		
8	6 20	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	食中毒について		
9	4 10 18 24	介護職スキルアップ研修 ヘルパーミーティング 介護職スキルアップ研修 ヘルパーミーティング	ヒヤリハット介護事故防止	認知症ケア 排泄ケア	飯田 久木田
10	8 22	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	インフル・ノロウイルス		
11	12 26	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	個人情報・プライバシー		
12	10 11 24	ヘルパーミーティング 介護職スキルアップ研修 ヘルパーミーティング	感染症の予防と対策	排泄ケア	佐方・住吉
1	14 17 18 28	ヘルパーミーティング 介護職スキルアップ研修 介護職スキルアップ研修 ヘルパーミーティング	褥瘡の理解と予防	口腔ケア 体位変換・ポジショニング ケア	澁谷・入部 上床・別府
2	11 25	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	緊急時対応について		
3	17 31	ヘルパーミーティング ヘルパーミーティング	新型コロナウイルス感染症に ついて		

平成 31 年度 事業報告書

居宅介護支援事業所

【総合的な評価】

医療と介護の連携強化が重要となり、事業所の目標としても介護保険の基本理念を基本としつつ、医療・福祉・行政・各関係機関等との連携を図る事に努めて来た。入院時には医療との連携シートを活用し情報提供を行い、院内カンファレンスに参加するなど、退院後の生活が安心して過ごせるようにサービス利用の支援調整を図った。入退院が多い中、医療関係室の SW と顔なじみの関係性が構築され、医療との連携が行える事で連携加算や、新規の紹介を得られた。昨年度創設されたターミナル加算についても、フラワーホーム診療所との連携により、自宅での看取りを行い加算の実績を得る事ができた。

30 年 10 月より対象となった厚生労働大臣が定めた訪問介護利用の生活援助利用回数については、回数の多いケアプラン 3 件の提出指示を受け、検証地域ケア会議による意見をもらい、承認を得る事ができ減算の対象とならなかった。特定事業所集中減算については、通所介護、訪問介護の事業所がそれぞれ第三者評価を受けた事により、居宅介護支援事業所としての事業所加算Ⅱの請求を継続する事ができた。また条件である介護支援専門員の実習生受け入れも行えた。

31 年 2 月居宅介護支援事業所の実地指導監査を受けたが、特に減算となる指摘も無く、医療との連携など介護保険法に沿って支援が行えているとの評価を受けた。5.5 人体制から 4 人体制となり担当件数等による業務過多の不安もあったが、それぞれの力量の不足部分は補い合いながら、4 人でチームとして行えて来たと思える。今後の居宅介護支援事業所としての課題として、共生社会について学び、自立支援に向けたケアマネジメントを行う為に、多職種、多機関の連携や、地域における多種多様な社会資源のコーディネートやネットワークの構築など、これまで以上に取り組む必要がある。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

- ・ 5.5 人体制から 4 人体制となったが、居宅事業所内での事例検討会や自己評価を行いながら、認知症やターミナル、困難事例等にチームとして対応を行った。

【収益的活動】

- ・ 医療との連携や法令厳守し減算とならないように、書類作成やケアマネジメントを行い特定事業所加算Ⅱの継続請求を行える事ができた。

【支出的活動】

- ・ 特定事業所加算の要件である事例検討会や研修への参加を行った

【地域貢献活動】

- ・ 全員参加は出来なかったが、地域の清掃作業に参加した。
- ・ 地域の方の相談を受け対応できたが、数件のみであった為、相談事業所としての周知を図る必要がある。

研修報告書

	内部研修		外部研修
4/1・8 15 22 25	・個人研修計画 ・福祉サービス利用支援事業 ・自立支援に向けたサービス ・事例検討 ・倫理基準		
5/1 8 15 22 27	・事例検討 ・モニタリング ・事例検討 ・自立支援 ・事例検討	5/18	・介護支援専門員協議会総会研修
6/3 10 20 24	・事例検討 ・担当者会議 ・記録 ・ライフレスキュー		
7/2 8 1 6 23 25	・薬の基礎知識 ・事例検討 ・看取り ・事例検討 ・苦情受付・相談解決		
8/2・8 14 20 26	・成年後見制度 ・事例検討会 ・生活保護 ・事例検討 ・コンプライアンス	8/16 19	・包括主催事例検討会 ・霧島市居宅支援事業所集団指導
9/4 10 18 24 30	・心臓リハビリ ・パーキンソン病 ・基幹型相談支援センター ・口腔加算 ・事例検討	9/13 14	・始良伊佐支部介護支援専門員研修 ・NPO 在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク「全国の集い in 東京」
10/8 15 23 28 31	・精神疾患 ・事例検討 ・ストレスの基礎知識 ・事例検討 ・薬剤師居宅管理 ・認知症支援の視点		

11/5 11 19 27	・事例検討 ・基礎疾患 ・事例検討 ・感染症	11/11 16 19 2 8	・県重症難病医療ネットワーク研修 ・認知症疾患医療研修 ・包括主催事例検討会 ・県介護支援専門員協議会研修
12/4 9 20 25	・事例検討 ・アセスメント ・モニタリング ・権利擁護	12/5 1 7 2 1	・介護支援専門員実務研修に係る実習指導者研修 ・市主催リスクマネジメントセミナー ・始良伊佐支部介護支援専門員協議会研修
1/6 17 22 27 30	・事例検討 ・アンガーマネジメント ・事例検討 ・褥瘡予防 ・筋トレ	1/17 21	・始良伊佐支部主任介護支援専門員研修 ・始良伊佐振興局入退院支援ルール
2/5 10 17 25 26	・生活保護 ・事例検討 ・実地指導内容 ・コロナウイルス対応 ・事例検討		
3/2 10 16 23	・心のケア ・コロナ対策 ・2025 問題 ・救急救命について		

介護度・月別実績数

単位：人

	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
4 月	4	21	33	45	18	11	2	134
5 月	6	23	33	40	19	10	2	133
6 月	4	22	36	38	22	9	3	134
7 月	4	21	39	36	22	10	3	135
8 月	4	20	42	35	22	9	4	136
9 月	4	20	45	35	22	7	3	136
10 月	4	20	46	39	21	8	3	141
11 月	4	20	48	35	25	7	5	144
12 月	3	19	48	36	26	7	5	144
1 月	4	19	45	34	25	6	5	138
2 月	4	18	45	34	26	5	5	137
3 月	2	18	45	35	26	6	3	135
合計	47	241	505	442	274	95	43	1647

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介護件数	109	104	108	110	112	112	117	120	122	115	115	115	1359
予防件数	25	29	26	25	24	24	24	24	22	23	22	20	288
新規	5	8	9	4	4	4	4	9	6	3	1	4	65
入院	8	4	5	6	8	4	8	7	16	6	7	8	87
入所	3	0	0	0	1	1	1	0	2	3	0	0	11
死亡	0	2	1	2	0	0	1	0	3	2	0	0	11

平成 31 年度 事業報告

地域包括支援センター

【総合的な目標の総括】

平成 31 年度は、総合相談として 175 件の相談があり、一番多かった相談が介護保険・総合相談に関するもので 73 件であった。その内 37 件の介護保険申請を行っている。困難事例や高齢者虐待事例として 6 件のケース会議を開催した。高齢者虐待事例としては精神疾患を患う家族関係もあり医療機関や警察、行政などと連携を図り対応を行った。

平成 30 年度から旧市町村単位での開催となった家族介護者交流会は、溝辺圏域における介護保険事業所の職員やライフサポートワーカーに協力をもらい 8 月 23 日に開催し 18 名の参加があった。参加者からも「同じ境遇にある人と話しが出来て良かった」「話しを聞いて気持ちが楽になった」などの感想を聞くことができた。

平成 31 年度から地域ケア会議の取り組みとして、溝辺圏域の介護保険事業所、ライフサポートワーカーとの関係構築を図り、地域課題の発見などを目的として地域ネットワーク推進会議を 12 月 16 日に開催している。意見として多く上がった事として人材不足の問題や 7 月の大雨を経験し、災害時の対応をどうしたら良いかとの意見が大半を占めていた。今回は災害時の対応について講師依頼を行い、意見交換を行う予定であったが、コロナウイルスの影響で 2 回目の開催が出来ないでいるが、これからも介護保険事業所やライフサポートワーカーとの顔の見える関係作りを行っていく。

平成 31 年度は、12 月に民生委員の一斉改選があり溝辺地区では 14 名の方が新しく民生委員となった。今後は新しく民生委員となった方と民生委員定例会などを通じて関係性の構築を図っていききたいと思う。

地域との繋がりでは、地域のひろば事業として取り組んでいるサロン活動に出向き広報活動や視察を行っている。今まで地域のひろば事業として取り組んでいた下有川地区のサロン活動は補助金の使い方に制限があり、思うような取り組みが出来ないとして令和 2 年度からは、地域のひろば事業としては活動せず、独自のサロン活動として取り組んでいくことになったが、今後もサロン活動に出向き広報活動に取り組んでいく。

資質向上に関しては、業務連会や外部への研修、主任介護支援専門員資格取得の為に研修に参加することで知識向上を図っている。

平成31年度 行事及び研修実績表

地域包括支援センター

月	日	行事	日	内部研修	日	外部研修
4	16	民生委員定例会	5	新年度目標発表会	10	霧島市ケアマネ会あしたば
	17	包括業務連絡会	10	リーダー会議		
	17	家族介護者交流会打ち合わせ	11	事業所情報連絡会		
	30	よいやんせ運営推進会議	19	高齢者福祉研究会		
			25	職員研修会		
5	13	高齢者虐待記録話し合い	10	リーダー会議	15	霧島市ケアマネ会あしたば
	14	溝辺地区介護者交流会話し合い	27	職員研修会	27	認知症サポーターキャパシティ研修会
	17	包括業務連絡会				
	20	包括主催事例検討会話し合い				
	22	民生委員定例会				
6	7	溝辺地区介護者交流会話し合い	10	リーダー会議	13	霧島市ケアマネ会あしたば
	10	自立支援地域ケア会議検討会	13	事業所情報連絡会	14	認知症研修
	17	包括業務連絡会	25	職員研修会	21	身寄りのない方への支援研修会
	18	民生委員定例会				
	27	よいやんせ運営推進会議				
7	8	事例検討会打ち合わせ	11	事業所情報連絡会	16	第1回 包括主催事例検討会
	10	霧島発 地域の絆発表会	12	リーダー会議	30	第1回 包括化推進員養成講座
	17	民生委員定例会	25	職員研修会		
	18	養護老人ホーム入所判定会				
	22	溝辺地区介護者交流会話し合い				
	24	包括業務連絡会				
8	16	民生委員定例会	13	リーダー会議	8	第2回 包括化推進員養成講座
	19	自立支援地域ケア会議	27	職員研修会	16	第1回 合同研修会
	20	霧島地区地域ネットワーク推進会議			30	ケア会議司会者研修
	22	包括業務連絡会				
	23	家族介護者交流会in溝辺				
9	5	事例検討会打ち合わせ	10	リーダー会議	2	第3回 包括化推進員養成講座
	12	移動販売打ち合わせ	12	事業所情報連絡会	6	第2回 包括主催事例検討会
	18	民生委員定例会	25	職員研修会	11	霧島市ケアマネ会あしたば
	20	包括業務連絡会				
	26	関係法人連絡会				
10	8	陵南中認知症サポーター養成講座	10	事業所情報連絡会	8～9	かごしまおもいやりネットワーク研修
	12	家族介護者交流会in国分	11	リーダー会議	24	地域包括・在宅介護支援センター研修会
	16	民生委員定例会	25	職員研修会		
	17	移動販売打ち合わせ				
	18	包括業務連絡会				
	31	よいやんせ運営推進会議				
11	6	居住支援ネットワーク	11	リーダー会議	13	霧島市ケアマネ会あしたば
	12	民生委員定例会	19	法人ケアマネジメント研修	19～22	主任介護支援専門員資格取得研修
	12	自立支援地域ケア会議話し合い	25	職員研修会	22	第4回 包括化推進員養成講座
	15	包括業務連絡会				
	19	独り暮らしの集い				
	25	家族介護者交流会in福山				
	27	霧島発 地域の絆サロン活動情報交換会				
12	4	自立支援地域ケア会議打ち合わせ	11	法人ケアマネジメント研修	17～20	主任介護支援専門員資格取得研修
	7	家族介護者交流会in霧島	25	職員研修会		
	10	自立支援地域ケア会議				
	16	溝辺地区地域ネットワーク推進会議				
	20	包括業務連絡会				
	24	民生委員定例会				
	26	よいやんせ運営推進会議				
1	8	JAあいサロン	9	事業所情報連絡会	13～15	主任介護支援専門員資格取得研修
	13	霧島発 地域の絆セミナー	10	リーダー会議	24	霧島市ケアマネ会あしたば
	15	包括業務連絡会	27	職員研修会		
	21	民生委員定例会				

2	9	健康福祉まつり	10	リーダー会議	6	第5回 包括化推進員養成講座
	18	民生委員定例会	25	職員研修会	17	第2回 合同研修会
	18	自立支援地域ケア会議			27	第6回 包括化推進員養成講座
	20	養護老人ホーム入所判定会				
	21	包括業務連絡会				
	26	よいやんせ運営推進会議				
3	17	民生委員定例会	10	リーダー会議		
	23	高齢者虐待評価会議	25	職員研修会		

平成 31 年度 事業報告

小規模多機能ホームふもとの家

【総合的な目標の総括】

令和元年度、ふもとの家では家庭的な環境の中で、ひとりひとりの御利用者に寄り添う気持ちを大切にすることを目標に掲げました。日々の暮らしの中で共に過ごすことで、御利用者と私達スタッフが共に支え合える関係性を築けるよう年間の活動を計画し実施しました。イベントとしては、御利用者・家族との花見、仙巖園遠足、嘉例川へのソーメン流しが実施できました。そして、味噌作り、野菜づくり、そばうち、餅つき等、御利用者がこれまでの暮らしの中で大切にしてくられたことをみんなで楽しく継続できるよう心がけてきました。

しかし、年度末においては新型コロナウイルス感染予防対策が最重要課題となり御利用者の活動において多くの制限をお願いせざる得ない状況となりました。

【利用者ケア・職員教育・人材確保】

今年度、腰痛を理由に職員が2名長期的な休職がありました。御利用者の重度化により身体的介助量が明らかに増えています。今後、身体的介助について、できる職員にばかり負担がいくと当然、その職員まで腰痛を引き起こすことが予想されます。御利用者の安心・安全はもとより、職員も身体的・精神的負担が軽減される身体介助を早急に学び、習得する必要があると考えています。また、現在の御利用者の殆どが認知症の方です。専門職として、認知症を正しく理解し、尊厳ある支援が継続できるよう職員全員が繰り返し学んでいきます。

【収益的活動】

今年度は前年度と比較して、収入は増加しました。しかし、年間を通してみると増減の差も大きく見られました。小規模多機能サービスは、包括報酬である為、御利用者の入院・入所で大きく変化します。また、小規模多機能サービスは要支援の方からご利用できることも大きな特徴です。従って、御本人・ご家族と長くお付き合いできます。スタッフ一同、御利用者との出逢いに感謝し、診療所・ご家族と連携をはかり最期まで安心してお付き合いできる事業所として信頼されるよう努力したいと感じる一年でした。それが、安定した収益、運営にも繋がると思います。

【地域貢献活動】

この数年間継続している地域の方々との交流事業「お茶ったもんせ」は12月まで実施できた。毎回、ボランティアの方を含め毎回10名程参加してくださっています。現在、ウィルス感染予防対策の関係で中止していますが、今後もこの繋がりは大切にしたいと思っています。

平成31年度 月別介護度別利用実績一覧表

小規模多機能ホームふもとの家

延べ利用者数

単位 : 人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4 月			252	86	163	174	90	765
5 月			286	88	164	182	93	813
6 月			250	116	139	136	90	731
7 月			305	89	146	121	123	784
8 月			326	88	146	121	93	774
9 月			319	108	134	138	90	789
10 月			301	151	123	118	71	764
11 月			290	158	108	146	60	762
12 月			267	182	115	148	62	774
1 月			226	204	106	143	62	741
2 月			238	198	87	123	87	733
3 月			298	214	93	83	93	781
合計	0	0	3358	1682	1524	1633	1014	9211

実利用者数

単位 : 人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4 月			9	3	6	6	3	27
5 月			10	3	6	6	3	28
6 月			9	4	5	5	3	26
7 月			11	3	5	4	4	27
8 月			11	3	5	5	3	27
9 月			11	4	5	5	3	28
10 月			10	5	5	4	3	27
11 月			10	6	4	5	2	27
12 月			10	6	4	5	2	27
1 月			8	7	4	5	2	26
2 月			9	7	3	6	3	28
3 月			10	7	3	3	3	26
合計	0	0	118	58	55	59	34	324

平成31年度 行事及び研修実績表

小規模多機能ホームふもとの家

月	日	行事	内部研修	外部研修	来園者
4	3	竹の子採り	4/25 基本的な介護技術に関する研修	4/8 介護職員等によるたんの吸引のための研修	ボランティア
	4	花見ドライブ			
	6	家族会			
	16・30	誕生会			
	24	歌謡ショー見学			
5	25	お茶ったもんせ	5/27 基本的な介護技術に関する研修	5/7・8・9 介護職員等によるたんの吸引のための研修 5/18 第8回定期総会・研修会	照明保育園児 ボランティア
	4	藤祭り見学(和気神社)			
	5・6	ドライブ(山田鯉のぼり)			
	20	照明保育園児とあく巻き作り			
	23	お茶ったもんせ			
6	27	そら豆収穫	6/25 健康管理や薬の効能に関する研修	6/3・4・5 介護職員等によるたんの吸引のための研修 6/26 バリテーション国際セミナー	ボランティア
	29・30	ジャガイモ・ビワ・小松菜・グミ収穫			
	5	梅収穫			
	9	玉ねぎ収穫			
	16・18	ドライブ(さえずりの森)			
7	17	誕生会	7/25 小規模多機能型居宅介護について	7/1 介護職員等によるたんの吸引のための研修	ボランティア
	22	ドライブ(大出の水)			
	23	味噌作り			
	27	お茶ったもんせ			
	29・30	ソーメン流し(アルプス)			
8	10	スイカ割り	8/23 利用者の尊厳の実践的展開に関する研修	8/1 介護職員等によるたんの吸引のための研修 8/16 介護支援専門員及び相談支援専門員合同研修会	照明保育園児 ボランティア
	16	七夕・照明寺保育園児との交流			
	17・18	ソーメン流し(アルプス)			
	25	お茶ったもんせ			
	26	誕生会			
9	29・30	ソーメン流し(アルプス)	9/25 介護記録の書き方に関する研修	9/15・16 全国の集い in 東京2019	ボランティア
	1・10	ドライブ(ひまわり見学)			
	2	しそ収穫			
	5	ジャム作り			
	19	誕生会			
10	21	かき水作り	10/25 認知症及び認知症ケアに関する研修	10/8 「かごしまおもいやりネットワーク事業」相談員CW養成研修会	ボランティア
	22	お茶ったもんせ			
	29	栗拾い			
	8	ドライブ(加治木港)			
	11	そば植え			
11	12	月見団子作り	11/25 非常災害時の対応に関する研修	11/18・19 人材育成研修会	ボランティア
	27	落花生収穫			
	29	ドライブ(山田の案山子)			
	13	コスモス見学			
	14	から芋掘り			
12	16	味噌作り	12/25 感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修	照明保育園児 ボランティア	ボランティア
	19	コスモス・赤そば見学			
	20・21	ドライブ(大出水)			
	25	お茶ったもんせ・敬老会			
	28	秋祭り見学			
1	30	温泉	1/24 プライバシー保護の取り組みに関する研修		
	2	ほげ祭り見学			
	3	ドライブ			
	8	玉ねぎ苗植え付け			
	10	菊まつり見学			
2	13	福山ドライブ	2/25 食事や嚥下に関する研修		
	25・26	遠足(仙蔵園)			
	28	お茶ったもんせ			
		外食			
		そば打ち			
3	4	そば落とし			
	5・6	干し柿作り			
	11・14・17	白菜漬け作り			
	16	金柑収穫・高菜漬物作り			
	18	照明寺保育園お遊戯見学			
4	19	お茶ったもんせ・クリスマス会			
	23	門松作り			
	28	餅つき(照明寺保育園交流)			
	31	そば打ち			
		元旦 おとそ			
5	2	おとそ・正月遊び			
	4	書初め・金柑収穫			
	4・5	絵馬作り			
	10	高菜収穫			
	12	高菜漬物作り			
6	2	ドライブ			
	3	節分豆まき			
	6	高菜漬物作り・誕生会			
	13	グランドゴルフ			
	24	里芋収穫			
7	4	ひな人形作り			
	10	誕生会			
	14	ドライブ			
	27	誕生会			

平成 31 年度 事業報告書

隠居長屋ろんち

【総合的な評価】

「隠居長屋ろんち」は、入居者同士が支えあい助け合って、身体が不自由になっても、認知症になっても住み慣れた地域での暮らしが継続できるよう、関係者と連携を図り支援できた。

お互い声掛けや見守りを行い、変化時は関係者に連絡を貰うことができた。

元気塾利用者と一緒にお茶を飲みながら談笑し、昼食を楽しんでもらえた。

季節に応じた郷土料理を職員、入居者、地域住民と一緒に作り、現在はフェースブックで紹介している。

（入居者の状況）

居 室	性別	年 齢	介護度	入居日	備 考
1 号室	女性	8 9 歳	要介護 5	H 2 2 . 7	ヘルパー・デイ・ショート・福祉用具
2 号室	女性	8 6 歳	要介護 1	H 3 0 . 4	小規模多機能
3 号室	女性	9 2 歳	要介護 3	H 3 1 . 1	ヘルパー・デイ・福祉用具
4 号室	女性	8 4 歳	要介護 2	H 2 . 1 0	ヘルパー・デイ・福祉用具
5 号室	女性	8 9 歳	要介護 1	R 1 . 9	ヘルパー・デイ・ショート・福祉用具
6 号室	女性	8 4 歳	要介護 1	H 2 8 . 8	ヘルパー・デイ・福祉用具
7 号室	女性	9 3 歳	要介護 3	H 3 0 . 1	ヘルパー・デイ
8 号室	女性	8 7 歳	要介護 1	H 2 7 . 1	ヘルパー・デイ・福祉用具
9 号室	女性	9 3 歳	自 立	H 3 0 . 4	元気塾
10 号室	男性	8 1 歳	事業対象	H 3 0 . 3	デイ

現在の入居申し込み者は 6 名です。

平成 31 年度 事業報告書

みぞべ元気塾

【総合的な評価】

「みぞべ元気塾」の活動は社会福祉法人の地域貢献活動で、火曜日～土曜日の週 5 日事業を行っている。
効果として

- 閉じこもり防止
- 介護予防・認知症予防
- レクリエーションや利用者同士の語り合いで元気になる
- MC I（軽度認知症）やフレイル状態の方を早期に発見できる
- 玄米菜食で健康増進

以上のような効果以上に目に見えない相乗効果があります。

【登録会員数】

一日会員 111名

溝辺地区 73名

隼人地区 34名

加治木地区 3名

横川地区 1名

（曜日ごと利用者数）

火曜日	20名
水曜日	14名
木曜日	25名
金曜日	17名～28名
土曜日	20名

（第1金曜日と第3金曜日に隼人地区の方が参加されるため金曜日の人数に変動がある）

活動内容をフェイスブックで紹介している。